

科目名	国際教養学特別研究 I	授業形態	演習
英語科目名	Advanced Seminar in International Liberal Arts Studies I	開講学期	前期
対象学年	1 年次	単位数	2 単位
代表教員	各研究指導教員	ナンバリング	SEM601
担当教員	各研究指導教員		
授業概要			
全体内容	この授業科目では、修士課程の修了に必要な修士論文又は特定課題研究を作成するための専門知識・技術を研究指導教員の指導の下に、段階的に修得する。修士論文又は特定課題研究は、学生自らが設定したテーマのもとで主題（問い）を立て、適切な研究方法を選択し、主題（問い）に対する答えをまとめるものである。学生は、入学試験時の口頭試問において、大学院で学びたい専門分野と研究指導教員の専門領域が一致しているか確認の上、研究指導教員を決定し、在学期間に渡り研究指導を受ける。国際教養学特別研究 I では、先行研究の検討を行い、テーマを決定し、研究計画書を作成する。 [研究指導教員および研究テーマの概要] (1 加藤 洋一) パンデミックという地球規模の危機や人口高齢化による非感染性疾病(NCD)死亡の増加等, 医療専門職以外にも健康課題の解決を担うグローバルヘルス人材の幅広い育成が求められている。主に非感染性疾病を中心とした独創的なテーマを絞り込み、国際的な先行研究も視野に入れた上で、実行可能なりサーチクエストンとして具体的な研究計画に落とし込み、広く社会的にも波及効果のある研究、或いは「根拠に基づく健康教育」のための実証的な研究の指導をしていく。 (2 伊東 辰彦) 社会の変化と芸術との関係性を意識しつつ、広く芸術一般について論じ、芸術作品の分析や歴史的考察、芸術・文化と社会・経済の関係などを、総合的な視点を踏まえて共に考えたい。学生には、人間の芸術活動について学ぶことによって、人間の社会や歴史において芸術が生み出す美がもっている意味についての理解を深めながら、自分という個人にとっても「芸術」が持っている意味を意識することを心がけて欲しい。 (3 藤原 帰一) パンデミック、気象変動、地域紛争、経済危機というグローバルリスクのなかでも主要な四つのテーマについて講義と討論を行う。こ		

の4テーマに関連した問いを参加学生が立てることを出発点とし、その次に、各自の問いを、概念定義が明確であり、学術研究を行うことが可能なリサーチクエスションへと具体化し、そのリサーチクエスションに対する回答として意味を持つ作業仮説を立てる。関連する論文・資料の入手方法について個別指導を行うとともに、リサーチクエスションと作業仮説について、先行研究のサーベイを伴う研究計画書を提出し、中間報告と討論を行う。

(4 湯浅 資之)

本演習は、グローバルヘルス領域における地球規模の健康課題のテーマの中から、学生が興味関心のある研究課題・リサーチクエスションを抽出し、その問題仮説を検証することを目指す。具体的には、リサーチクエスションを検討するための疫学理論とその数理処理のための生物統計の手法を修得する。リサーチクエスションを「アウトカム」と「関連する曝露要因」の関連性に読み替え、各々をどの変数で計測するのか検討する。またその関連性に影響を与える交絡要因の存在と、交絡要因を制御する方法を学ぶ。サンプリングや計測に伴うバイアスの制御方法も併せて学修する。その上で生物統計をもとに関連性の妥当性と信頼性を検証し、結果を修士論文としてまとめられるようになることを目指す。

(5 ニヨンサバ フランソワ)

分子細胞生物学研究法の基本を修得しその原理を理解しておくことは生命科学のいかなる分野に進むにあたっても必須である。分子細胞生物学的研究手法は、現実には非常に多様であるが、その中でもっとも基本的な実習として、細胞と遺伝子の階層的な関連について学習する。特に原核生物および真核生物のモデル細胞に対し、遺伝子組換え技術を用い、遺伝子が細胞の形質を決定する仕組みを理解すると共に、そのための手法を取得する。さらに、細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成分子である核酸(DNA, RNA)やタンパク質を取り扱うための基本的な技能(PCR法、ウェスタンブロッティング法など)を修得する。

(6 田村 好史)

全世界に共通する健康問題として、肥満や高齢化がある。その一方で日本では女性の痩せの問題が近年クローズアップされてきている。本授業科目では、このような健康課題に対するアプローチ法を検討するために、その根拠となる研究を行う。具体的には、過去に行われた研究のレビューを行うとともに、本研究室で進めている疫学データの解析を行うことにより、健康長寿を達成するためのエビ

デンスを構築する。このような研究を遂行することにより、クエスチョンや仮説の立て方、それを検証するための方法の立て方、得られたデータの正しい解析法、結果に対する客観的な解釈が身に着くことが期待される。

(7 池田（野田） 愛)

貧困や差別，社会構造や雇用などを含む社会・経済・文化が人の行動や心身の健康状態にどのように影響するのかについて，疫学研究手法を用いた調査を実施し，心理学，行動学，社会学，経済学等の理論を用いて解明する実証的な研究の指導をしていく。社会の構造が集団あるいは個人の行動，生活習慣，健康状態に影響を与えるという社会疫学の基本的な概念を学び，その主要な方法論である疫学について基礎的な知識を習得する。また，同時に統計学の方法を学び，統計ソフトを用いて簡単な統計解析ができるように指導する。

(8 岡本 美代子)

本演習は，グローバルヘルス領域での国内外に生じている分野横断的な課題を含むテーマの中から，学生が関心のある研究課題を選択し，システマティックな文献レビューによりリサーチクエスチョン，研究目的を明確にし，探究する。具体的には，健康の不平等や格差，社会的決定要因の影響や保健医療制度の評価等について探究するために，質的データと量的データを統合する 混合研究法の手法を修得し，多面的な視点から課題を捉え，より実践的で適用可能な考察，結論を導き出すことを目指す。

(9 大野 直子)

ヘルスコミュニケーション学とは、医療分野におけるコミュニケーションを対象とした学問分野であるが、本演習では特に医療通訳を中心とした外国人患者と医療従事者の間でのコミュニケーションを学ぶ。外国人患者の問題は、異文化コミュニケーション、社会学、移民政策等多角的に研究が必要な学際的課題である。当該分野の先行研究のレビューを行い研究手法を学ぶとともに、外国人医療に関する基礎的知識を習得する。学んだ中から学生が興味関心のある研究課題・リサーチクエスチョンを抽出し、その問題仮説を検証することを目指す。

(10 原 和也)

本演習の目的は，異文化間のコミュニケーションにおける諸問題について，通時的・共時的視点をもとに，世界観，価値観，思考様式における個人内レベルの活動と，それらが外面化した言語及び非言

	語行動としてのコミュニケーション活動の相関関係を明らかにすることである。研究のアプローチは、社会科学的視点からの理論モデルの構築、実証、そしてその結果に基づく理論の構築である。また、欧米を中心に発展してきたコミュニケーション理論の問題を批判的に分析し、非西洋的視点・東アジア中心のコミュニケーション学研究の視点から、新たな示唆を提供することも目標とする。			
到達目標	修士論文のテーマを選択し、研究計画書を完成させることができる。			
授業の位置づけ	研究指導科目、必修科目			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	ディプロマ・ポリシーのうち、「判断力（DP3）」「コミュニケーション力（DP4）」「自律的に学ぶ力（DP5）」に関連している。			
履修上の注意、履修要件	自身が学びたい専門分野を専門とする研究指導教員が決まっていること。			
成績評価の方法				
評価方法	研究計画書（100%）			
評価基準	・研究の目的、研究の背景、研究の手法が明確に記載されているか ・参考文献（先行研究）・資料リストは十分であるか ・想定される研究の成果は妥当であるか			
試験・課題等に対するフィードバック方法				
課題に対する取り組みとその成果により評価する。				
テキスト				
研究テーマごとに別途指示する。				
参考文献				
研究テーマごとに別途指示する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	各研究指導教員がオフィスアワーを設定する。			
担当教員の実務経験	N/A			
備考	授業計画は予定です。詳細については、研究指導教員の指示に従ってください。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	研究指導教員	オリエンテーション	演習	【予習】なし 【復習】修士論文の完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。（240分）
2	研究指導教員	テーマを検討する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマの決定に必要な情報を収集する。（120分） 【復習】修士論文の完成に向けて、研

				究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。(120 分)
3	研究指導教員	情報検索を学ぶ	演習	【予習】前回の授業を振り返り、情報検索の方法について明確に説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文の完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。(120 分)
4	研究指導教員	文献検索を学ぶ	演習	【予習】前回の授業を振り返り、文献検索の方法について明確に説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文の完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。(120 分)
5	研究指導教員	先行研究を論理的に説明する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマの設定に必要な情報を集める。(120 分) 【復習】修士論文の完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。(120 分)
6	研究指導教員	先行研究を論理的に説明する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマの設定に必要な情報を集める。(120 分) 【復習】修士論文の完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程をスケジュール表にまとめる。(120 分)
7	研究指導教員	先行研究からテーマを導く	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマの設定に必要な情報を集める。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、研究・調査・執筆を行う過程のスケジュール表を完成させる。(120 分)
8	研究指導教員	先行研究からテーマを導く	演習	【予習】前回の授業を振り返り、自らが選択した研究テーマを明確に説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
9	研究指導教員	テーマについて議論する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、自らが選択した研究テーマを明確に説明でき

				るように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
10	研究指導教員	テーマについて議論する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、自らが選択した研究テーマを明確に説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
11	研究指導教員	予備調査を実施する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマに関する先行研究を説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
12	研究指導教員	予備調査を実施する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマに関する先行研究を説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
13	研究指導教員	研究計画書を作成する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマに関する先行研究を説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
14	研究指導教員	研究計画書を作成する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマに関する先行研究を説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)
15	研究指導教員	研究計画書を作成する	演習	【予習】前回の授業を振り返り、研究テーマに関する先行研究を説明できるように準備する。(120 分) 【復習】修士論文完成に向けて、設定したテーマに関する研究計画書を完成させる。(120 分)

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL，反転授業，グループワーク，討議，発表等）